

ヘビの知らせ

10月中旬を過ぎての、重なる悪天候は意外でした。秋になると、畑の水はひきにくくなり、土はなかなかさっぱりとしてきません。冬の葉物の播種は、終盤でつまづいてしまいました。時候なりの天候を外れると、心も体も調子を外してしまいます。時候より天候。無理は禁物なのですが、じゃあ、今日できなかったことを一体いつできるのか、とってしまいます。

「虫の知らせ」という言葉があります。虫が伝令を担って、誰かに何かを教えることだと思っていたら、本当は、人間は体内に「虫」=他者を宿していて、彼らが本能によって、超人的感覚で察知した変事を、宿主たる人に知らせることを言うようです。人は、たぶん、大事なことは、虫に教えられてきたに違いないし、体の内外を問わず、虫と人間は、共生関係にあったわけです。

近年、畑を訪れ花粉やミツを集めるハチ達の数が、めっきり少なくなっています。ネオニコチノイド系農薬の影響と言われています。交渉は秘密なので断定できませんが、厚生省はTPPに連動して、これら農薬の残留基準値を大幅に、引き上げようとしています。

先週、私の師匠二人が、同じようなことを話してくれました。「今年は蛇が少ない。マムシを一匹も見かけなかった」気がかりそうに、二人が言葉にした異変は、蛇の知らせかもしれません。

杞憂なんて言葉はもう信用なりません。世界が虫の息にならないように、世界の秘密を教えてください。耳を傾けたいです。(晃)

10月のまとめ

前半は、30度前後の暑さが戻り、忍び寄っていたはずの「ムシ」が、大手を振って、全面展開。ヨトウムシの卵塊があちこちに。網目ぐりの上手なイモムシたちに、悩まされることになりました。後半は、遅れてきた、秋の長雨で、上記のように作付はできず、草ばかり伸びています。

写真は、台風前に掘り上げてハウスに避難させた落花生を、みんなではずしているところです。左側の若者は、仙台の友人の息子さん。2週間ほど滞在し、畑や出荷の仕事に参加



してくれました。群馬に住む、彼の姉一家が遊びに来たり、孫のお披露目の会で隣組の皆さんが集まってくださったり、東京の出版関係の知人が訪問したり、とお付き合いはずいぶん盛んでありました。目下、一番気になるのは、10月に始まった臨時国会での秘密保護法の行方です。(11月4日 泰子)

<料理メモ>~まるごとキャベツ

白菜が、虫と病気でとれなくて、キャベツばかり入っています。うちでは、丸ごとスライサーで千切りにして、山のように食べますが、以下のレシピも試してみようと思っています。

~キャベツは4つに切って土鍋に入れて、水700CCと固形スープ一個で蒸し煮にする。半分は炒めたひき肉を蒸し汁でのばしたものをかけて食べる。残りの半分は、細切りにして熱いうちに白ワインビネガーをかけ、あら熱がとれたら冷蔵庫へ入れて、常備菜に。~茨城・久松農園の野菜を使った、大久保朱夏さんのシンプルな野菜レシピ・サイト <http://vegerecipro.com/>より

